

学校番号	学校名	校長名
20	川崎市立井田中学校	望月 貴司

学校教育目標	今年度の重点目標
知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな、しなやかでたくましい生徒を育成する ①すすんで学び、正しい判断力と実行力のある人 ②心身ともに健康で、明るく思いやりのある人 ③働くことに喜びをもち、協力できる人 ④強い意志と忍耐力をもち、責任感のある人 ⑤郷土を愛し、国際性豊かな人	「人間性豊かな、しなやかでたくましい生徒の育成をめざして」 ①支援教育の充実と不登校生徒への組織的な対応【重点目標4】 ※具体的な方策 ・支援を必要とする生徒の情報共有、不登校未然防止、早期発見(支援会議の充実・学習室の運営) ②主体的に学習に取り組む態度を育む授業【重点目標3】 ※具体的な方策 ・各教科等の「見方・考え方」を働かせる授業への改善(授業研究の充実) ③多面的な平和学習の取組【重点目標1】 ※具体的な方策 ・系統的で多面的な平和学習に取組み、思いやりをもった、平和の尊さを深く理解できる生徒の育成を図る。

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
心の教育 ・特別の教科道徳 ・特別活動 ・人権尊重教育 ・共生*共育 ・教育相談 ・平和学習	◆学年ごと計画的に道徳の学習を行うことができた。担任のみならず副担任も授業を行うことで教員のスキルアップにもつながった。また、経験の少ない教員も安心して指導にあたることができた。 ◆特別活動・人権尊重教育・共生*共育・平和学習ともに年間計画に位置付けられ様々な場面で確実に行うことができた。 ◆生徒の変化をいち早く察知する教員の洞察力や生徒の心へ寄り添う教育相談のスキルを磨くため「SOSの受け止め方」について今年度も講師を招き研修した。	●学年ごとの道徳学習会については、勤務時間外に行われることも多く、働き方改革との兼ね合いの難しさに直面している。 ●友だちとの関係や教職員との関係についてのアンケート回答は概ね良好であり、心の教育の効果が垣間見られた。 ●生徒に関しては「SOSの出し方」、教職員・保護者に関しては「SOSの受け止め方」の講演を2年連続で実施した。生徒や職員への良い影響を期待したい。	○学年ごとに時間を調整することで勤務時間内に道徳学習会が実施できるようにするなど、学校全体で会議の時間確保を検討し、働き方改革も平行して推進していく必要がある。 ○概ね良好であった友だちとの関係や教職員との関係については、さらに改善されるよう具体的な方策を生徒とともに検討していく必要がある。 ○教育相談についての研修を重ね、今以上に生徒に寄り添うことができる教職員集団を形成する必要がある。
健康でたくましい身体 ・健康教育 ・安全管理 ・保健管理 ・教育環境整備	◆新型コロナウイルス感染症が感染症法上で5類に移行してからも、引き続き自己健康観察と感染予防対策の徹底を促すとともに、インフルエンザなども含め感染症に対する健康教育の充実を図った。 ◆給食主任を中心に食育に関する情報発信が確実に行われた。また、感染予防に対応した給食指導の定着を図った。また、教室や用具等の安全衛生確保を図った。 ◆保健体育科の研究とも連携して健康教育の活性化に努めた。	●新型コロナウイルス感染症が感染症法上で5類に移行してからも、自主的に感染予防する意識が定着していた。 ●前を向いての給食に関しては、新型コロナウイルス感染症が5類に移行して以降、違和感をもつ生徒が増えてきた。来年度からは班単位での喫食ができるようにしたい。 ●保健体育科の研究とも連携して健康教育の活性化に努めた。今後も継続して健康教育を推進できるようにしたい。	○新型コロナウイルス感染症は収束したわけではないので、引き続き感染予防を実施するとともに、正しい情報を適切に発信し、生徒・保護者・教員が適切な対応ができることが必要である。 ○分掌の連携とともに生徒委員会の連携も行い、多方面からの視野での安全衛生管理・環境整備が必要である。 ○スムーズな配膳の実施、感染予防の徹底、食育が共存できる給食指導の在り方を模索する必要がある。
確かな学力 職員研修の充実 ・授業力向上 ・授業研究 ・職員研修 ★主体的に学習に取り組む態度を育む授業(今年度の重点)	◆新しい学習指導要領の趣旨を生かした授業改善を組織的、継続的な教育活動において展開する。特に、指導と評価の一体化を各教科で十分検討して授業実践していく。 ◆保健体育科の研究推進における教育課程研究会及び研究報告会において主体的に学習に取り組む態度を育む授業の改善について全市に向けて発信できた。	●研究授業においてICTを活用した授業や新しい学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善がなされた。 ●保健体育科だけでなく今年度は、音楽科、英語科、数学科の地区研や初任研が本校で行われ、授業改善のための授業研究が積極的に行われた。	○新しい学習指導要領に基づいた適正な学習評価となるよう、評価の精度を高め、指導と評価の一体化を図っていく必要がある。 ○授業改善への対応やGIGAスクール構想の推進により、働き方改革に向けた意識改革と逆行し業務量が増えてしまった現実がある。勤務時間内における教職員の授業研究のための時間確保が必要である。
特別支援教育及び支援教育 ★支援教育の充実と不登校生徒への組織的な対応(今年度の重点)	◆特別支援コーディネーターや特別支援学級主任、分教室主任を窓口、「はぁ〜とほーむ」や「かなで」との連携を図った。 ◆増加する不登校の未然防止、早期発見、課題解決や通常級における支援を必要とする生徒の支援を目指すために、学習室を運営し情報共有、解決策の相談を行った。	●「はぁ〜とほーむ」や「かなで」との連携については、相互の努力により、円滑に行うことができた。 ●利用する生徒が安心して入室できる学習室の運用が定着してきた。	○連携体制については学校だけで構築できない面があるので、関係諸機関とも密に情報を交換し、積極的に活用する必要がある。 ○次年度は更に組織的支援の確立を図るため、解決策の相談時間および人員確保が必要である。
地域との連携 ・開かれた学校 ・魅力ある学校づくり	◆保護者や地域との協力と連携を大切にしたい教育活動の推進を目指した。 ◆今年度は風水害に関する防災教室を行い、開かれた学校、教育課程を目指した。また、地域教育会議の活動として「教育を語る集い」を実施した。 ◆小中連携会議において教務主任の間で密に情報の交換や行事や活動の調整を行った。	●今年度はPTA挨拶運動や授業参観がコロナ前と同様実施できた。PTAの活動もほぼ例年どおり行えた。 ●学校の様子は「学校通信」「校長室だより」によって発信できた。また、防災教室においては次年度も地域の方々も含めて実施しての予定である。 ●教務主任間で有意義な情報交換の場となった。しかし、教職員の交流行事は殆ど実施できなかった。	○保護者との良好な関係づくりがなされていると考えるが、一部の保護者からの要望については区教育担当など関係諸機関のご指導、ご協力をいただきながら丁寧な対応を継続していく必要がある。 ○先人の取組で地域との連携は円滑に行われていたため、今後は折に触れ見直ししながらの連携を再構築する必要がある。 ○今後も交流の方法や日程や時間など小学校と調整を図り検討していく必要がある。また、県立中原支援学校とも連携したい。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
○本年度も生徒、保護者、教職員を対象にアンケート調査を実施した。生徒・保護者・教職員ともに、概ね肯定的な回答であった。特に学校生活全般のことや友だち・教職員に関しては肯定的な回答が多いが、一方で否定的な回答をした少数の生徒にも目を向けていく必要がある。 ○学校教育推進会議は例年どおり3回実施した。地域の代表の方々に授業の参観やアンケートの結果を示し、生徒も会議に参加して生徒の立場からの意見を発表し、生徒の育成をめざし努力する学校教育の実情について理解をいただき、生徒や教職員への励ましの言葉をいただいた。アンケート結果からは、「安心できる」という声を多くの地域の方々からいただいた。	○新型コロナウイルス感染症が感染症法上で5類に移行したこともあり、積極的に行事の公開やオープンスクールを実施した。教職員と生徒がお互いに知恵を出し合い、工夫しながら活動を進めてきたため、生徒たちは感染予防に心がけながら様々な活動に対して前向きに取り組むことができていた。アンケートの結果についても「学校生活は楽しく充実している」という設問に大多数の生徒が肯定的な回答をしている。アンケート結果に甘んじることなく、今後もさらに生徒一人ひとりが充実した学校生活を送ることができるよう教育活動の改善に努めていきたい。 ○学習室の安定的な運用が可能となったが、不登校数は依然として減少に至っていない現状がある。未然防止、早期発見、課題解決を目指すために、今後も支援会議の更なる充実とともに、学習室設置の趣旨を明確にして、保護者にも理解を促し、支援教育との両立を踏まえて具体的な支援の方法を模索する場となるよう努めていきたい。 ○新しい学習指導要領への対応、GIGAスクール構想への対応など、保健体育科の研究推進を先頭に教職員が全力で取組み、その成果が授業改善として現れてきた。一方、それを行うため教員の業務量が増してしまっている現状がある。業務の効率化と教育活動の合理化とスリム化を具体的にどう進めるか見極め、働き方改革をより推進していく必要がある。